

那覇市文化財調査報告書 第94集

# 那覇市内遺跡 V

— 崎樋川貝塚 B —

2012年3月

那覇市教育委員会

那覇市文化財調査報告書  
第九十四集

那覇市内遺跡  
V

二〇一二年三月  
那覇市教育委員会

# 那覇市内遺跡Ⅴ

—崎樋川貝塚B—

2012年3月

那覇市教育委員会





巻首図版 上：調査地全景 下：遺物の出土状況



## 序

この報告書は、「個人住宅建設事業」に伴って行われた崎樋川貝塚Bの緊急発掘調査成果を収録したものです。

崎樋川貝塚Bは平成19年度に実施したものです。県指定の史跡として著名である崎樋川貝塚に近接する場所での調査で、土器・貝製品・石器等、那覇における先史時代の史料の追加をすることができました。

この報告書が文化財愛護思想の高揚、さらには諸開発計画における保存協議の円滑な推進に寄与することを期待しつつ、多くの方々に有効に活用されますことを希望するものであります。

末尾になりましたが、発掘調査作業に従事していただいた皆様、その他多くの関係者の方々の多大なご協力に対しまして深く感謝いたします。

平成24年3月

那覇市教育委員会  
教育長 城間 幹子

## 例 言

1. 本報告書は、那覇市教育委員会が国の補助を受けて平成19年度に実施した「崎樋川貝塚 B」の緊急発掘調査の成果を収録したものである。
2. 第1図上に使用した図は、坂本幸雄 株式会社 ティービーエス・ブリタニカ『ブリタニカ国際地図』1991年7月1日（第2版改訂発行）の91ページの部分をトレースして使用した。
3. 第1図下に使用した地図は、平成21年11月1日、国土地理院発行の那覇市全図（部分）を使用した。
4. 第2図に使用した地図は、米軍作成地形図（1947・1948撮影の航空写真をもとに1948年作成）の一部を使用した。
5. 第3図に使用した地図は、昭和63年12月 那覇市資産税課発行『那覇市現況・地籍併合図』2（1/500）（部分）をトレースして使用した。
6. 遺物実測図の番号と写真図版の遺物番号は一致するように配置してある。
7. 本報告書の執筆は玉城が行った。編集は、渡辺幸夫、国吉真由美、石原愛子の協力を得、玉城が行った。
8. 出土遺物は那覇市教育委員会文化財課で保管している。

# 那覇市内遺跡V

## 目次

### 巻首図版

序

例言

- 第1章 調査に至る経緯
- 第2章 遺跡の位置と環境
- 第3章 調査体制と調査経過
- 第4章 層序
- 第5章 遺物
- 第6章 総括

### 挿図目次

- 第1図 那覇市および遺跡の位置
- 第2図 遺跡周辺の古地図
- 第3図 調査区の位置
- 第4図 調査区平面図
- 第5図 土層断面図
- 第6図 土器口縁部
- 第7図 土器口縁部
- 第8図 土器底部
- 第9図 貝鏃
- 第10図 貝鏃
- 第11図 貝鏃
- 第12図 貝鏃
- 第13図 貝鏃
- 第14図 貝輪、有孔製品
- 第15図 貝匙
- 第16図 石斧、骨製加工品

### 挿表目次

- 第1表 土器出土一覧
- 第2表 土器観察一覧
- 第3表 貝製品観察一覧

- 第4表 石器観察一覧
- 第5表 骨製加工品観察一覧
- 第6表 貝類遺存体出土一覧
- 第7表 魚類遺存体出土一覧
- 第8表 棘皮動物出土一覧
- 第9表 甲殻類出土一覧
- 第10表 軟体動物出土一覧
- 第11表 フジツボ類出土一覧
- 第12表 ウミガメ出土一覧
- 第13表 イノシシ出土一覧
- 第14表 イノシシ歯出土一覧
- 第15表 鳥類出土一覧
- 第16表 不明獣骨出土一覧
- 第17表 種不明骨出土一覧

### 図版目次

- 図版1 調査地区の状況
- 図版2 調査地区の状況
- 図版3 土器口縁部
- 図版4 土器口縁部
- 図版5 土器底部
- 図版6 貝鏃
- 図版7 貝鏃
- 図版8 貝鏃
- 図版9 貝鏃
- 図版10 貝鏃
- 図版11 貝輪、有孔製品
- 図版12 貝匙
- 図版13 石斧、骨製加工品





## 第 I 章 調査に至る経緯

本遺跡は、那覇市大字天久樋川原に所在する。平成19年、当該地所有者である有限会社那覇葬祭から那覇市へ、セレモニーホール（葬儀施設）建設に係る建築確認申請が出され、同年5月に建築確認がなされ工事が開始された。

平成19年7月、那覇市教育委員会職員が偶然その工事現場において大規模な採砂が行われているのを見かけ、これが周知の文化財の近くでの工事が行われているとの情報として埋蔵文化財担当へもたらされ、現地を踏査、遺跡を発見したことに端を発する。

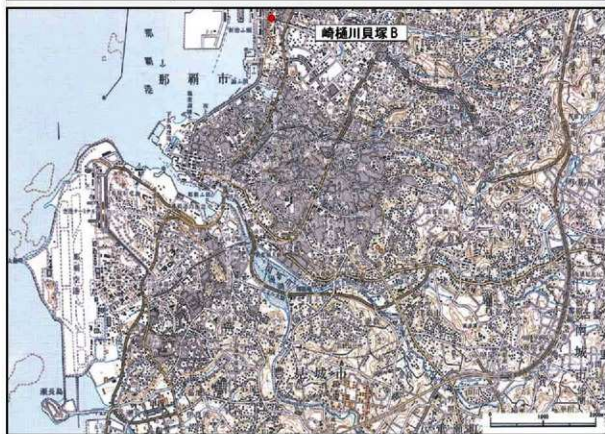
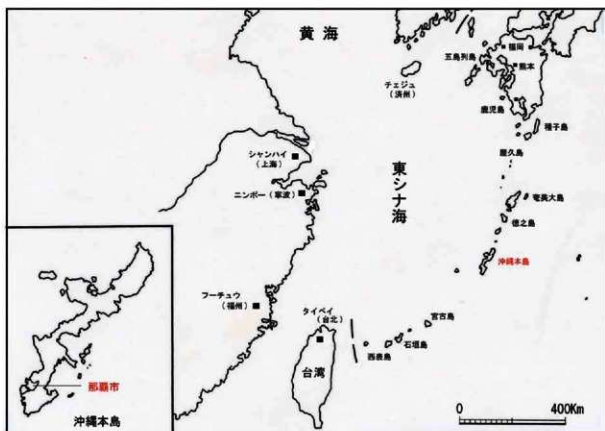
那覇市教育委員会では文化財の保護と周知を目的として、那覇市の開発部局との申し合わせで平成18年度より「建築確認申請の事前合議先一覧」に埋蔵文化財の確認欄の掲載を設けており、建築工事等の開発における指導を図っているところであるが、ただし、この場合「埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地」との条件が付されている。当該事業地は、周知の埋蔵文化財「崎樋川貝塚」の包蔵地に近接しているものの、指定範囲外であることや既存の建物があつたことなどにより、建築確認の際の文化財についての合議が行われなかったのである。

さて、かかる情報が当教育委員会にもたらされ現地を検分した時点ではすでに基礎部分の工事を終えた後であった。申請地の土砂の大半は、掘削され、さらに縦横に張られたコンクリートの基礎や梁などの建物躯体構により穿たれ分断された状態にあつて、それらを辛うじて免れた数か所の砂地がこんもりとした饅頭のような砂の土手として残されていた。これらの土手の法面には黒い遺物包含層が確認でき、土器や貝殻が見えられた。ここで遺跡の包蔵域であると判断。ただちに事業者と那覇市教育委員会とで取扱いについて協議を行った。

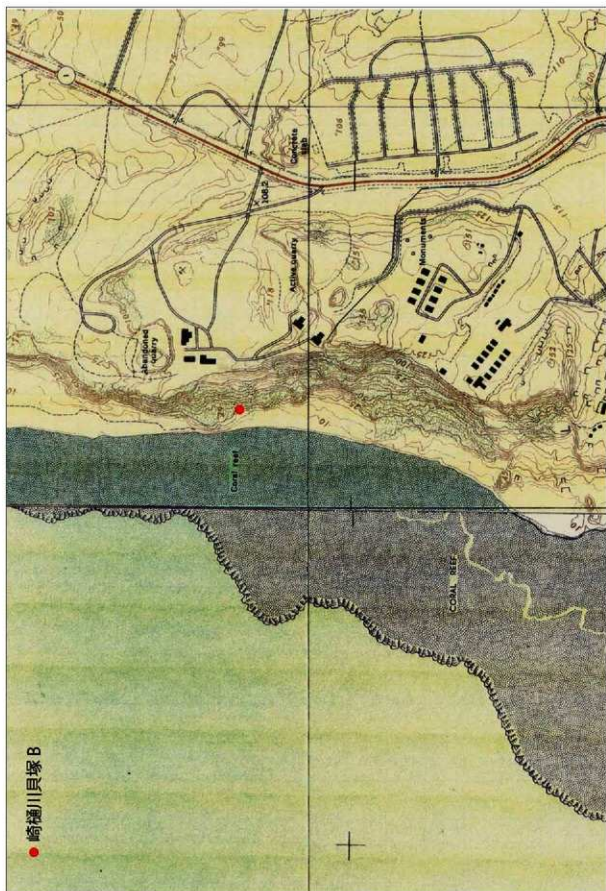
事業者には遺跡との認識のないまま掘削を行い、その事前連絡の遅れた事、また那覇市において結果的に十分な指導の及ばなかったこと、さらに今回の発見により当該申請地が埋蔵文化財包蔵地であり、文化財保護法にもとづく適切な手続きが必要であることをまず確認した。

その上で当該事業の変更や遺跡の現状での保存が難しいこと、当該事業者が発掘調査に応じること、零細事業者であること、当該事業が葬祭に供する施設として公共性が高い施設であり、早急な対応が必要と判断された。以上のことに鑑みて、県文化課とも協議のうえ、国庫補助金による緊急の発掘調査を実施するとの結論に至った。

発掘調査は平成19年7月23日より開始することとした。



第1図 那覇市および遺跡の位置



第2図 遺跡周辺の古地図

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

本遺跡の所在する那覇市は沖縄本島南部に位置し、平成23年1月末現在、面積約39.23km<sup>2</sup>、総人口318,658人（注1）と県内最大の人口を誇る県庁所在都市である。市域は東シナ海に西面し、北は浦添市、北東に西原町および南風原町、南に豊見城市に接する。

本遺跡は、那覇市字天久に所在する。同地域は北の浦添市に近接しており、ここを戦後沖繩の発展を支えた大動脈国道58号が縦断し、やはり物流の拠点として開かれた那覇新港を擁し、さらに近年泊大橋や沈埋トンネルが繋がったことで、港や空港への中北部からのアクセスも容易になり、今後益々経済的重要度の増すことが予想される地域である。

さて、遺跡付近をみると、遺跡是那覇市北方に広がる天久高台の西の縁に当たる。天久高台は琉球石灰岩の発達が顕著な高台であり、若干の起伏を持ちながら北の安謝川、南の安里川に挟まれた広大な面積を有する。この台地西端では南北に切り落とされた急峻な崖地となって東シナ海に面している。遺跡はその崖下の斜面中腹から下位へかけて、海へと至る砂丘上に形成される。砂丘から西側は戦後埋め立てられて那覇新港となっており、海岸線は遠く西へ移動しているが、昭和三十年代頃までは現在遺跡に隣接する道路の西方側付近が汀線となっており、そこから沖へは遠浅のリーフが広がっていた。1948年に米軍によって作成された地図（第2図）からは、本遺跡周辺の往時の地形を窺うことができる。

「崎樋川貝塚」いう遺跡名については、ここから崖沿いに南へ約300mいった崖下のほぼ同じ稜線上に崎樋川（さちひじゃー）と呼ばれる近年まで水量の豊富であった井泉があり、その名を冠したことによる。遺跡は県指定の史跡となっており、その名称も崎樋川貝塚である。

ちなみに崖中腹部分の遺跡と下部の砂丘地のそれとは出土遺物の違いから、前者は縄文時代後期、後者は沖繩貝塚時代後期に所属する時期の別の遺跡と考えられ、前者を崎樋川貝塚A、後者を崎樋川貝塚Bと呼称する場合もある。その経緯について以下に簡記した。

### 崎樋川貝塚

崎樋川貝塚は、先述のとおり崖下中腹に位置する県指定の史跡である。昭和7年に島田貞彦により発掘調査が実施されている（注2）。その調査によれば伊波式土器や荻堂式土器（現在の伊波式や荻堂式の土器型式概念とはやや異なる）や貝製品や骨製品が出土。中でもとりわけ蝶形骨器が有名である。そのほか小型犬の遺存骨も検出されており、往時における狩猟犬の存在が指摘されている（注3）。なお、史跡としての指定の正式名称は先述の通り「崎樋川貝塚」であるが、後年、遺跡下方において所属時期が異なる後代の別の遺跡の存在が明らかとなったため、これと区別する意味で一般に崎樋川貝塚Aとも称される。

### 崎樋川貝塚B

昭和39（1965）年、火葬場施設建築工事に伴う掘削の際に斜面下部の土手面や近接する琉球石灰岩塊周辺において貝を伴った遺物包含層の露頭によりその存在が確認され、翌年高宮廣衛氏によって小規模の発掘調査が実施されている（注4）。

崎樋川貝塚の下方において後代の土器の出土することは多和田真淳氏に注意された如く(註5)、比較的早くから知られていたようであるが、高宮氏の調査でも無文化の傾向の強い沖繩貝塚時代後期の土器、貝錘、貝匙、貝輪などの貝製品や石器が出土している。これらの出土遺物特に土器の特徴は上方の崖中腹の発掘調査出土遺物の特徴と異なるものである。高宮氏は、時期の異なる二つの遺跡が近接併存することが明らかになったとしてここを崎樋川貝塚Bと命名している。

今回の調査地点はこの貝塚Bの出土遺物の内容に近似しており、位置的にも近いことから、本稿でも崎樋川貝塚Bの範囲の一部としてこれを呼称することにする。

## 註

1. 那覇市統計情報(那覇市ホームページ)『広報なは 市民の友』第722号 2011年3月
2. 島田貞彦「琉球崎樋川貝塚」『歴史と地理』第三十巻第五号 昭和7年
3. 三宅宗悦「琉球崎樋川貝塚出土家犬に就いて」『人類学雑誌』第四十七巻第十号 昭和7年
4. 高宮廣衛「那覇市の考古資料」『那覇市史』資料篇 第一巻一 昭和43年 那覇市役所歴史資料室
5. 多和田真淳「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」『文化財要覧』1956年 琉球政府文化財保護委員会

## 第三章 調査体制

発掘調査および報告書作成は次の体制により実施された。

事業主体	那覇市教育委員会	教育長	桃原 致上 (平成19年度)
			城間 幹子 (平成23年度)
事業所管	那覇市教育委員会	文化財課	課長 古塚 達朗
調査総括		副参事	島 弘
事業事務		主査	田端 睦子 (平成19年度)
		主査	幹 内間 靖 (平成23年度)
		主査	會澤 一大 (平成23年度)
		主任主事	赤嶺 増美 (平成19年度)
		主任主事	仲宗根 健 (平成23年度)

調査員 文化財課

主 幹 内間 靖 (平成23年度)

専門員主査 玉城 安明

専門員主査 北條 真子

主任専門員 仲宗根 啓

主任専門員 樋口 麻子

主任専門員 當銘 由嗣

専門員 知念 政樹

発掘作業員

喜瀬 彰・呉屋 嘉仁・伊佐 真祐・高良 淳・橋本 圭司・当真 哲

平良 祐人・下地 元光 (以上、平成19年度)

資料整理

大城 亜姫代・東江 美矢子・仲宗根 美奈子・當眞 かおり・比嘉 えみ

新城 京美・仲松 真智子・徳元 桐子・大城 美登里・運天 マキ

池田 一美・高嶺 知子 (以上、平成23年度)

資料整理作業全般に亘って下記のメンバーの指導・協力を仰いだ。

渡辺 幸夫・国吉 真由美・石原 愛子

## 第IV章 調査経過

発掘調査は平成19年7月23日から8月3日までの期間で実施した。前章で触れたとおり、発見の時点で建築工事現場内であったこと、加えて工事が並行して進められているなかであったため、思いのほか調査は制約された。

躯体構に挟まれ区画された土手状の包蔵域のうち、断面観察等で残りが良いと判断された三ヶ所について発掘区と定め、それぞれを1～3区と仮称し調査に着手した。

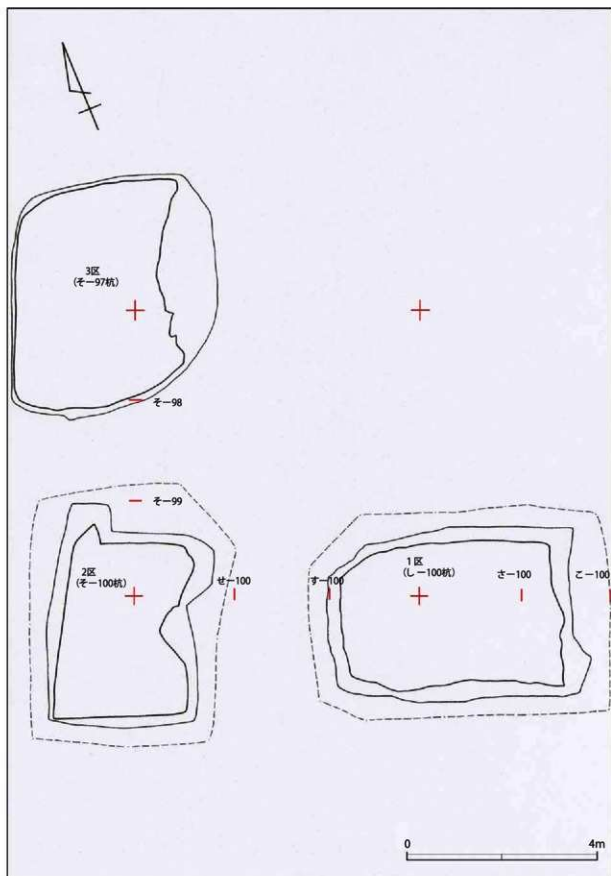
調査はまず各区上面や周囲を覆っている瓦礫や工事に伴うセメントガラなどの除去から始めた。これらは主に今回の工事の過程で被ったものであるが、それによって攪乱の及んでいいる可能性があったため、遺物包含層より上位の堆積層は状態を確認しながら除去した。併せて調査区全体を網羅するグリッド設定を行った。

発掘区は遺物包含層を含んだ砂地の堆積層で、乾燥すると削り取られた法面から徐々に崩落し、土器や貝類遺存体が流出する状態であった。調査を進めるにあたっては、遺物や層序



第3図 遺跡の位置





第4図 調査区平面図

の三次元座標を押さえながら取り上げすることも検討したが、工事現場内での移動の際に足場が悪いなどの安全上の問題や躯体に伴う型枠・鉄筋・単管足場などによる遮蔽物が多く測量作業の障害となっていること、さらに期間的な問題もあって、やむなく土層確認と遺物採取に主眼を置いた調査となった。なお、調査期間中、工事ヤードに仮置きされた、包蔵域から採砂された残土からの遺物採取も行った。

各発掘区とも基準点を通る東西ラインに土層確認のための畦（各グリッド北壁面：1区においては、こ・さ・しー100の北壁面、2区では、せ・そー100北壁面、3区は、せ・そ・たー97北壁面）を残して、層位を確認しながら遺物を取り上げて掘り下げを行い、その都度写真撮影を行った。

遺物包含層を掘り切って、畦の土層図を実測図化。その後畦の取り壊しながら遺物取り上げを行った。堆積層を掘り切って完掘とし、調査を終了した。

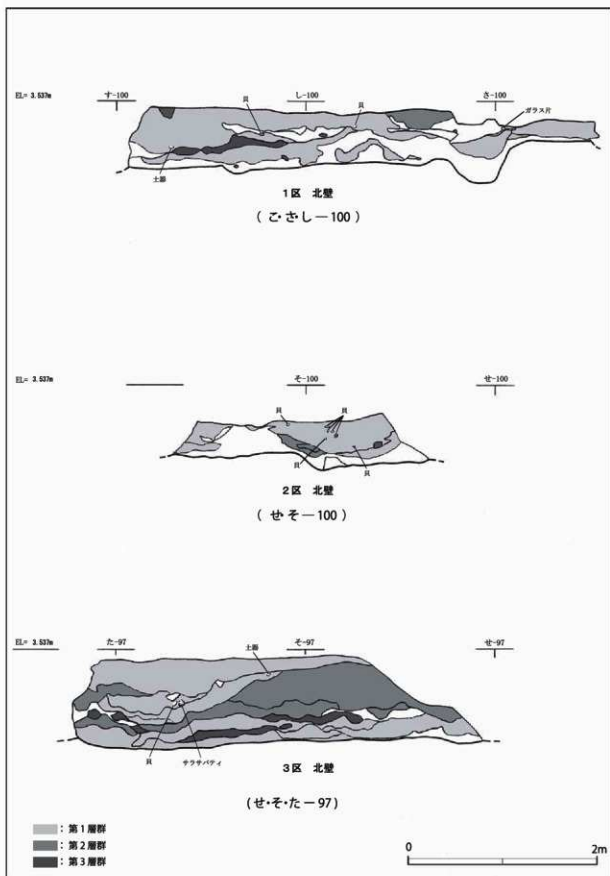
## 第V章 層序

層序は、視覚的に色調の違いや締り具合、包含する遺物の多寡等によって細分した。これらは概ね水平方向へ堆積しているが、仔細な断面観察における層相は各層とも消長や厚薄は一樣ではなくやや複雑な堆積状況を示している。ただし、上面からの平面的な堆積状況は必ずしも明瞭では無いため、遺物の取上げに際しては上位からレベリングして扱った。

基本的な層序は概ね次の三種の層群に集約される。

- 第1層群：1区や2区において顕著にみられるやや淡い褐色を帯びた色調の層群である。一部に白砂塊を含んだ層もある。最も上位の層準とみられるが、3区においては最下位での堆積もみられる。1区さー100グリッドでは薄いが、しー100へかけて白砂の間層を挟みつつ厚みを増す。3区においても同様に西側へかけて厚みを増す。
- 第2層群：3区において堆積が顕著にみられるやや暗い色調を呈する層群である。同層群の各層で色調に微妙な濃淡の差がある。
- 第3層群：黒色に近い色調の層群である。層厚は概して薄い。3区において一部に互層をなしている箇所がみられる。2区での堆積はみられない。

以上の基本層序は、1～3区にほぼ共通するとみられるが層厚は必ずしも一定せず、また同一の発掘区においても局部的に序列の逆転する箇所も認められる。この事は堆積層の比較的動き易い砂地であることを考えると、何らかの自然的な条件により層の移動あるいは逆転



第5図 土層断面図

した可能性を示していると考えられた。しかし今回のような小規模な、しかもそれぞれの層の広がりの確認できない状況においては、全体像の把握は困難であった。

## 第VI章 遺物

これらは人工遺物と自然遺物とに大別されるが、貝塚であることから貝類遺存体を中心とした自然遺物が圧倒的に多い。以下に記述していく。

### 第1節 土器

815点が得られた（第1表）。印刻文様を施すものではなく、且つすべて小片で全形の判るものはない。

本遺跡の土器の特徴のひとつとして無文化の強い点が挙げられる。ただし、口縁部に粘土紐を貼付ける標品が検出されている。

他方、器としての造りの粗さが挙げられる。例えばひとつの個体においても曲面の具合が一律でないものが多くさらに器面に指頭圧痕が明瞭に残ることで、その凹凸により器壁の厚みも均等でない。これが小破片であることと相俟って、容器としてのサイズや傾き具合、つまり土器の基本的な手がかりとなる器種や器形の推定が困難な標品が多い。ただ、極端に内彎する形状のものではなく、概ね甕形を想定した。

残存部における胎土は、泥胎感はあるが焼成は比較的良好、やや硬質のものが多い。器面の状態は最終的にナデによる調整を基本としているが徹底しておらず、先述のとおり多くの標品の器面には指頭圧痕が残る。

ここでは先の理由から、部位毎に分けて標品それぞれの特徴について観察表（第2表）にまとめた。



第2表 土器観察一覧(1)

(器サイズの単位はmm)

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 底径 器高 器厚	色調	胎土・焼成	備考	出土地点
第6図1 図版3の1	甕 口縁部	260 — — 9	外：褐色 内：橙色	微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良好で堅緻である。	器内外とも丁寧なナデを施す。外面横位の擦痕、内面に指圧痕を僅かに残す。頸部から口縁にかけて緩やかにカーブしながら外反する。	せー96 暗褐色砂層20/40
第6図2 図版3の2	甕 口縁部	— — — 7	外：褐色 内：淡橙色	微細な石英を僅かに含む。焼成は良好である。	舌状の口唇を内外に挟むかたちで二本の粘土紐を貼付けて、上縁を角状に立てる。外面において粘土紐は繋がるようである。器面内外ともナデを施すが、内面のそれはややルーズである。	せー97 暗褐色砂層0/10
第6図3 図版3の3	甕 口縁部	— — — 6	外：橙色 内：橙色	微細な白色粒子・石英を僅かに含む。やや泥質。	上記2と同じく二本の粘土紐を貼付ける。内外ともナデを施すが、外面はやや粗い。	そー96 暗褐色砂層0/20
第6図4 図版3の4	甕 口縁部	— — — 7	外：暗褐色 内：暗褐色	胎土は泥質。焼成は良好で比較的堅緻である。	内外面ともナデられ、滑らかであるが、僅かに指圧痕がみられる。	そー96 暗褐色砂層0/20
第6図5 図版3の5	甕 口縁部	— — — 7	外：橙褐色 内：橙色	胎土は泥質。焼成は良好で堅緻である。石英を僅かに含んでいる。	内外面ともナデられ、滑らかである。内面に僅かに指圧痕がみられる。	せー96 暗褐色砂層0/20
第6図6 図版3の6	甕 口縁部	— — — 7	外：橙色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子・石英を僅かに含む。焼成は良く、堅緻である。	内外面ともナデられ、滑らかであるが、外面に横位の擦痕、内面に指圧痕が僅かにみられる。	そー96 暗褐色砂層20/40
第6図7 図版3の7	甕 口縁部	— — — 8	外：明赤褐色 内：橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子・石英を僅かに含む。焼成は良く、堅緻である。白色粒子が極く僅かに含まれる。	内外面ともナデられるが、ともに横位の擦痕を残す。	そー96 暗褐色砂層20/40
第6図8 図版3の8	甕 口縁部	— — — 6	外：赤褐色 内：橙褐色	胎土は泥質。微細な石英が僅かに含まれる。	内外面ともナデられるが、横位の擦痕および指圧痕を残す。	そー97 暗褐色砂層20/40
第6図9 図版3の9	甕 口縁部	— — — 6	外：橙褐色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な石英が僅かに含まれる。焼成は比較的良好い。	内外面ともナデられるが、横位の擦痕および指圧痕を残す。また内面には成形時の輪積みの痕がみられる。	そー96 暗褐色砂層20/40

第2表 土器観察一覧(2)

(器サイズの単位はmm)

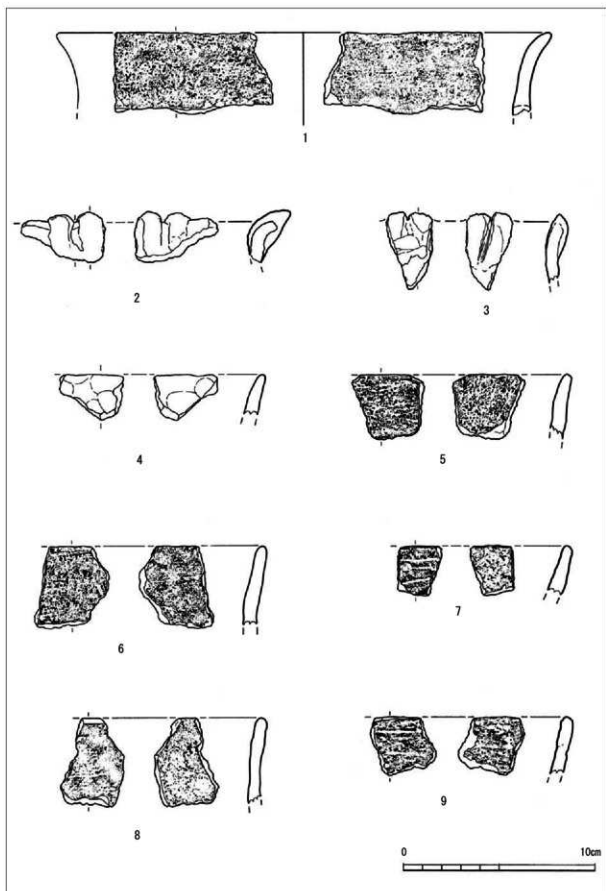
挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 底径 器高 器厚	色調	胎土・焼成	備考	出土地点
第7図1 図版4の1	甕 口縁部	— — — 8	外：橙褐色 内：橙褐色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成は良い。	器内外ともナデられるが、内面には指圧痕が残す。	そ一96  暗褐色砂層20/40
第7図2 図版4の2	甕 口縁部	— — — 8	外：淡橙色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な白色粒子を極く僅かに含む。	器内外面ともナデられるが、外面には横位の擦痕、内面には指圧痕が残る。	そ一97  暗褐色砂層40/60
第7図3 図版4の3	甕 口縁部	— — — 5	外：淡褐色内： 淡褐色	胎土は泥質。微細な白色粒子・石英を僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられ、滑らかである。	そ一97  暗褐色砂層60/80
第7図4 図版4の4	甕 口縁部	— — — 7	外：橙色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な橙色粒子および白色粒子を僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられ、特に内面は滑らかであるが、口唇内面上端に粘土の積みがみられる。	そ一96  暗褐色砂層0/20
第7図5 図版4の5	甕 口縁部	— — — 5	外：橙色 内：橙色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられる。	そ一96  暗褐色砂層20/40
第7図6 図版4の6	甕 口縁部	— — — 8	外：淡褐色 内：暗褐色	胎土は泥質。微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良好で堅緻である。	器内外面ともナデられるが指圧痕が残る。内面には成形時の粘土の積み残りが数段みられる。	そ一97  暗褐色砂層60/80
第7図7 図版4の7	甕 口縁部	— — — 7	外：淡橙色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な白色粒子を極く僅かに含む。焼成は良く、やや堅緻である。	内外面ともナデられるが、ともに指圧痕を残す。	そ一97  暗褐色砂層0/20
第7図8 図版4の8	甕 口縁部	— — — 6	外：淡黄褐色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な白色粒子および赤色粒子が僅かに含まれる。焼成は良くやや堅緻である。	内外面ともナデられるが指圧痕を残す。	そ一97  暗褐色砂層0/20
第7図9 図版4の9	甕 口縁部	— — — 6	外：黒褐色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な橙色粒子・石英が僅かに含まれる。焼成は比較的良好。	内外面ともナデられるが、指圧痕を残す。器下半部から上位へ開き、中途で屈折して口縁部へかけて直立する。屈折部分(輪積み箇所)は強調される。	た一97  暗褐色砂層60/80

第2表 土器観察一覧(3)

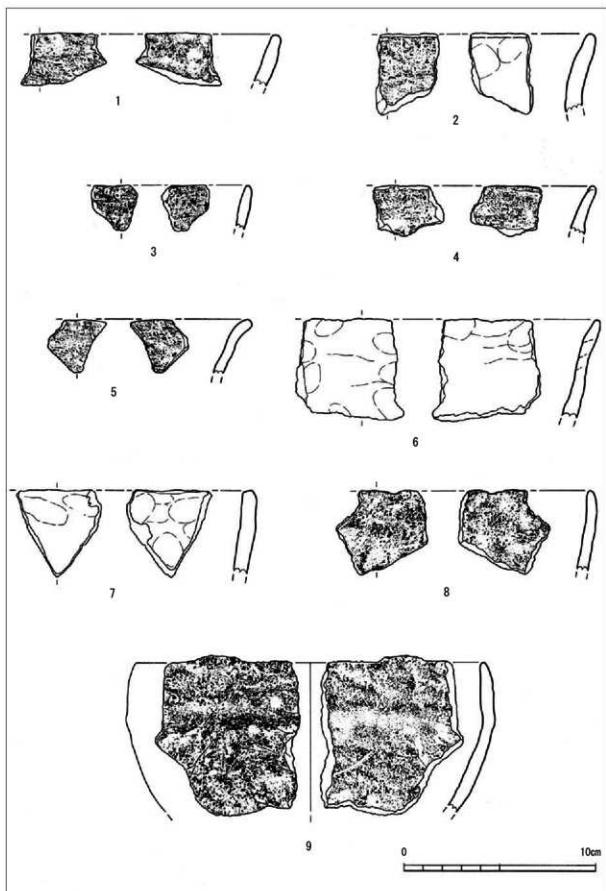
(器サイズの単位はmm)

挿図番号 図版番号	部位 形状	口径 底径 器高 底厚	色調	胎土・焼成	備考	出土地点
第8図1 図版5の1	底部尖底	— — — 15	外：灰褐色 内：黒色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成は良く堅緻である。	器内外ともナデが施される。	そー97  暗褐色砂層40/60
第8図2 図版5の2	底部尖底	— — — 9	外：橙色 内：橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子と赤色粒子を僅かに含む。焼成は良い。	器内外面はナデられ、部分的にヘラによる調整痕が残る。内面は粗面となる。	そー97  暗褐色砂層20/40
第8図3 図版5の6	底部尖底	— — — 13	外：橙褐色 内：黒色	胎土は泥質。微細な白色粒子を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデが施される。先端の周りに僅かなくびれがみられ、乳房状尖底にやや近い。	そー97  暗褐色砂層20/40
第8図4 図版5の4	底部 乳房状	— — — 16	外：淡橙色 内：黒色	胎土は泥質。微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデられ滑らかである。	そー97  暗褐色砂層20/40
第8図5 図版5の5	底部 乳房状	— — — —	外：明褐色 内：明褐色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられ、特に内面は滑らかに仕上げられる。	そー96  暗褐色砂層20/40
第8図6 図版5の6	底部 くびれ平	— 4 — —	外：茶褐色 内：茶橙色	胎土は泥質。微細な黒色粒子を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデられるが、全体に摩耗している。上げ底である。	さー99  暗褐色砂層20/40
第8図7 図版5の7	底部 くびれ平	— 46 — 8	外：淡橙色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデられるが、内面には調整痕が残る。	さー99  暗褐色砂層0/20
第8図8 図版5の8	底部 平	— 100 — 10	外：橙色 内：橙色	胎土は泥質。微細な赤色粒子が僅かに含まれる。焼成は良い。	内外面ともナデられるが若干摩耗を受けている。	そー97  暗褐色砂層0/20

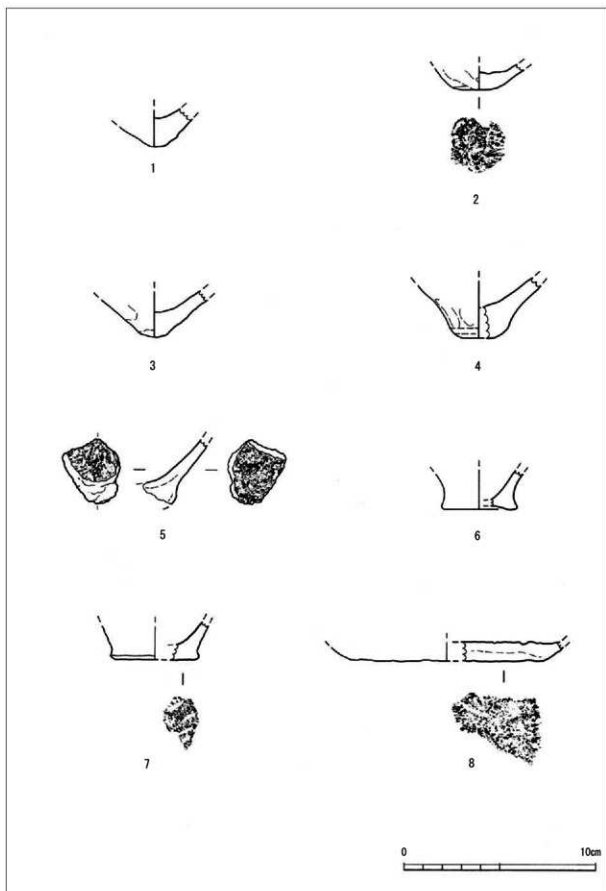




第6圖 (図版3) 土器 口縁部



第7圖 (図版4) 土器 口縁部



第8圖 (圖版5) 土器 底部

口縁部（第6・7図、図版3・4）

40点の出土があった。口縁部に粘土紐を貼付けする標品が2点検出されている。先の理由から傾きの推定の難しいものが多かった。残存部において概ね外傾外反器形が優勢である。第6図1は頸部から大きくカーブしながら緩やかに外反するもので、土器の造りや器面の仕上げも比較的丁寧な点において他と異にする。

他方、第7図9は内傾口縁の資料である。粗造で輪積み部分を隆起させ強調する。他に同図7・8も同種の可能性がある。

胴部は660点の出土があった。器面の内外とも整形が乏しく、成形時の粘土の積み痕が器面に残るのみられる。今回は紙幅の都合で胴部資料の掲載を割愛した。

底部（第8図、図版5）

10点の出土があった。形態の特徴から尖底・乳房状尖底・くびれ平底・平底の四種に大別される。口縁部や胴部資料に比して器面は滑らかで器壁は概して薄手の印象がある。やはり資料は小さい。第8図8は底径の大きな平底であるが、グスク土器の可能性もある。

## 第2節 貝製品

用途でみると貝錘が最も多い。その他に有孔製品や貝輪、貝匙などがある。詳細を観察表（第3表）にまとめた。

貝錘（第9～13図、図版6～10）

素材としてはシャコガイ科が圧倒的に多い。ただし、これらの孔の形状は不定形で明確な研磨痕の残るものは認められず、また小振りのものなどもあって、貝錘としての用途にやや疑問の残るものもある。

貝輪（第14図1・2、図版11の1・2）

第14図1は貝輪の半欠品である。同図2は未成品であろうか。

有孔製品（第14図3、図版11の3）

チョウセンサザエを用いたものである。殻口縁近くに孔を穿つ。

貝匙（第15図、図版12）

ヤコウガイを用いたものである。いずれも未成品とみられる。

## 第3節 石器

石器は思いのほか少ない。石斧1点のみが検出されている。詳細は観察表（第4表）に示した。

第3表 貝製品観察一覧(1)

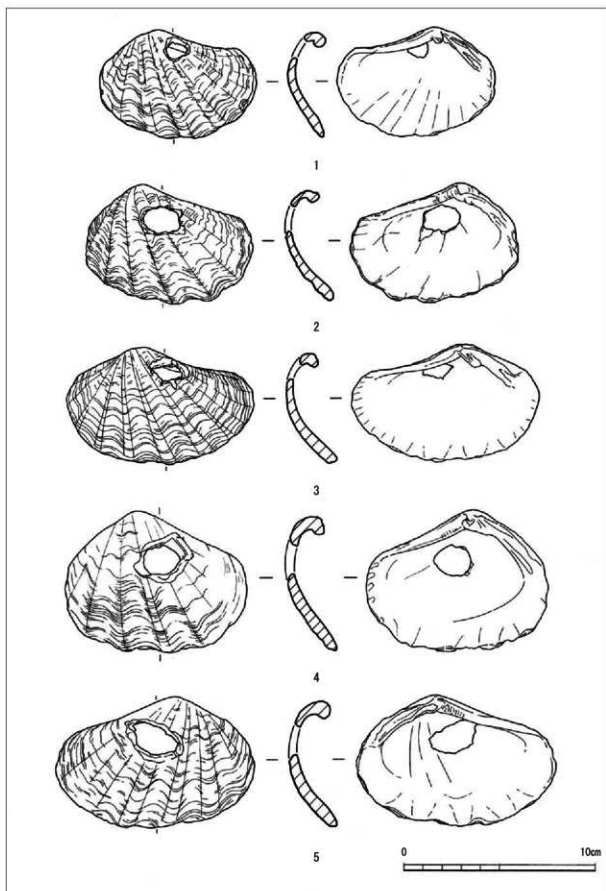
挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (mm)	孔短径 (mm)	殻長 (mm)	現存 重量 (g)	観察事項	出土地点
第9図1 図版6 の1	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	11	10	83	47.4	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー97 暗褐色砂層 60/80
第9図2 図版6 の2	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	19	14	88	52.9	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー97 暗褐色砂層 0/20
第9図3 図版6 の3	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	16	9	98	64.2	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。全体に摩耗が みられる。	せー97 暗褐色砂層 40/60
第9図4 図版6 の4	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	19	15	96	86.3	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー96 暗褐色砂層 20/40
第9図5 図版6 の5	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コR	21	15	104	84.9	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー97 暗褐色砂層 60/80
第10図1 図版7 の1	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	9	8	78	40.7	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー96 暗褐色砂層 20/40
第10図2 図版7 の2	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	13	11	70	30.5	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー96 暗褐色砂層 0/20
第10図3 図版7 の3	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コL	23	12	74	22.6	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー100 暗褐色砂層 20/40
第10図4 図版7 の4	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コR	14	11	87	44.3	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー96 暗褐色砂層 60/80
第10図5 図版7 の5	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コR	7	5	63	17.5	孔の周りに明確な研磨痕は みられない。孔内縁はシャープ で、穴の位置がややずれてい る。自然破損の可能性もある。	せー96 暗褐色砂層 60/80
第11図1 図版8 の1	貝錘	シャコ ガイ	シラナ ミR	8	6	52	8.5	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。	せー99 暗褐色砂層 40/60
第11図2 図版8 の2	貝錘	シャコ ガイ	シラナ ミR	19	12	60	9.7	殻頂部付近に粗孔を穿つ。 孔の周りに明確な研磨痕は みられない。孔の下半部は 二次破損とみられる。	せー97 暗褐色砂層 40/60

第3表 貝製品観察一覧(2)

挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (mm)	孔短径 (mm)	殻長 (mm)	現存 重量 (g)	観察事項	出土地点
第11図3 図版8 の3	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コR	8	7	80	36	殻頂部付近に粗孔を穿つ。外面を斜位に研磨によるものとみられる挟りが残る。孔より頂部へかけても浅い研磨がみられる。	そー97 暗褐色砂層 0/20
第11図4 図版8 の4	貝錘	シャコ ガイ	シラナ ミR	10	6	64	18.3	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そー96 暗褐色砂層 0/20
第11図5 図版8 の5	貝錘	シャコ ガイ	ヒメジャ コR	15	11	60	16.4	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そー97 暗褐色砂層 40/60
第12図1 図版9 の1	貝錘	フネ ガイ	リュウ キュウ ザルボ ウR	13	10	78	79.1	殻頂部に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体に水摩を受けている。	たー96 暗褐色砂層 40/60
第12図2 図版9 の2	貝錘	フネ ガイ	リュウ キュウ ザルボ ウR	16	14	56	20.7	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体に水摩を受けている。	たー96暗褐色砂層60/80
第12図3 図版9 の3	貝錘	フネ ガイ	リュウ キュウ ザルボ ウL	10	9	56	25	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せー96 暗褐色砂層 40/60
第12図4 図版9 の4	貝錘	フネ ガイ	リュウ キュウ ザルボ ウL	8	7	44	11.1	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体的に水摩を受けている。	そー97 暗褐色砂層 60/80
第12図5 図版9 の5	貝錘	ウミ ギク	メンガ イル	28	17	53	9.8	腹面に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そー96 暗褐色砂層 20/40
第12図6 図版9 の6	貝錘?	ウミ ギク	メンガ イル	7	7	56	20.1	やや腹縁部よりに粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。二次的破損の可能性もある。	さー99 暗褐色砂層 40/60
第13図1 図版10 の1	貝錘?	イモ ガイ	ニシキ ミナシ	22	22	73	40.1	腹部から螺階部にかけて粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そー96 暗褐色砂層 20/40
第13図2 図版10 の2	貝錘?	タカラ ガイ	ヤクシ マダカ ラ	43	33	54	26.6	背部に粗孔を穿つ。自然破損の可能性もある。	せー96 暗褐色砂層 20/40
第13図3 図版10 の3	貝錘?	タカラ ガイ	ヤクシ マダカ ラ	41	35	57	21.5	背部に粗孔を穿つ。自然破損の可能性もある。	せー96 暗褐色砂層 20/40

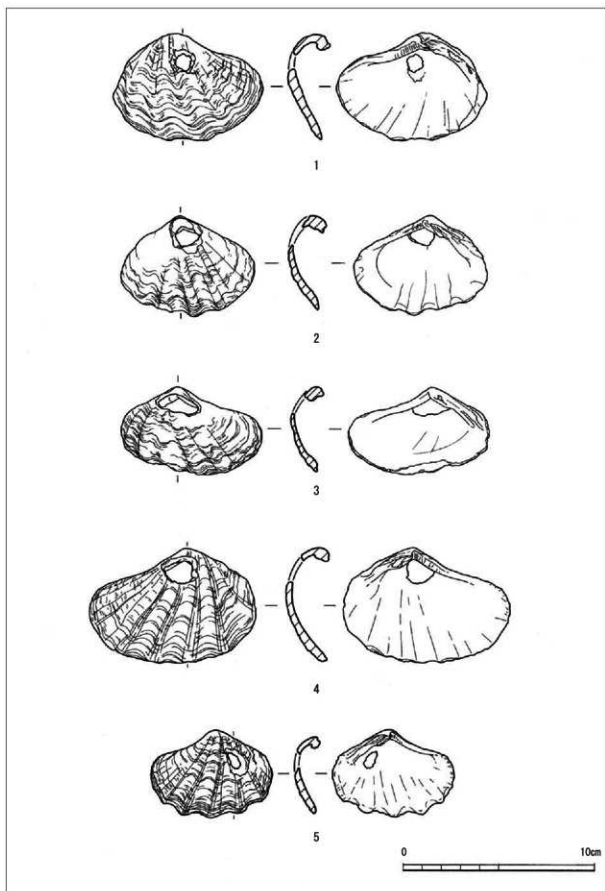
第3表 貝製品観察一覧(3)

挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (mm)	孔短径 (mm)	殻長 (mm)	現存 重量 (g)	観察事項	出土地点
第13図4 図版10 の4	貝錘	タカラ ガイ	ホシダ カラ	57	56	92	118.2	背面側部からの打撃により殻が大きく剥離している。剥離した殻とは接合する。いずれにも明確な加工痕はみられない。	せー97 暗褐色砂層 40/60
第14図1 図版11 の1	貝輪	不明	オオツ タノハ?				6.4	貝の外周を残し内縁を丁寧に研磨して環状となる。僅かに放射肋を残す。破損品である。	せー96 暗褐色砂層 20/40
第14図2 図版11 の2	貝輪	ツタノ ハ	オオベツ コウガ サガイ	31	23	47	4.3	殻頂部に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せー96 暗褐色砂層 0/20
第14図3 図版11 の3	有孔製 品	ニシキ ウズ	サラサ パティ		14		800	螺口近くに孔を有する。一部破損のため形状は不明。他に明確な加工痕はみられない。	せー97 暗褐色砂層 60/80
第15図1 図版12 の1	貝匙	リュウ テン	ヤコウ ガイ	長さ 129	幅73		185.7	螺階部を切り取って匙状をなす。破損のため形状・サイズは不明。外縁の一部には僅かに研磨痕もみられる。	せー97 暗褐色砂層 60/80
第15図2 図版12 の2	貝匙	リュウ テン	ヤコウ ガイ	残存の 長さ97	幅65		60.9	螺階部を切り取って匙状をなす。破損のため形状・サイズは不明。外縁の一部には僅かに研磨痕もみられる。	せー96 暗褐色砂層 0/20

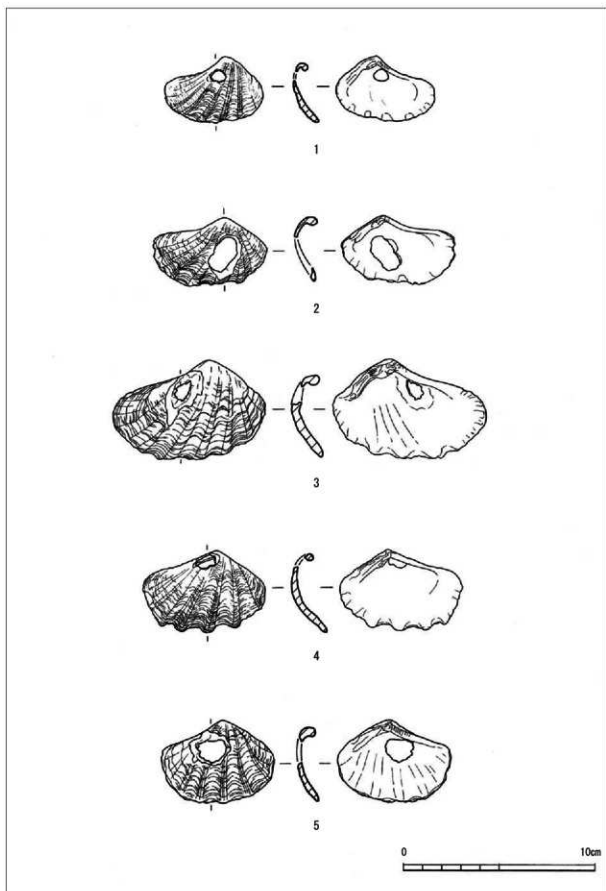


第9圖 (圖版6) 貝 錘

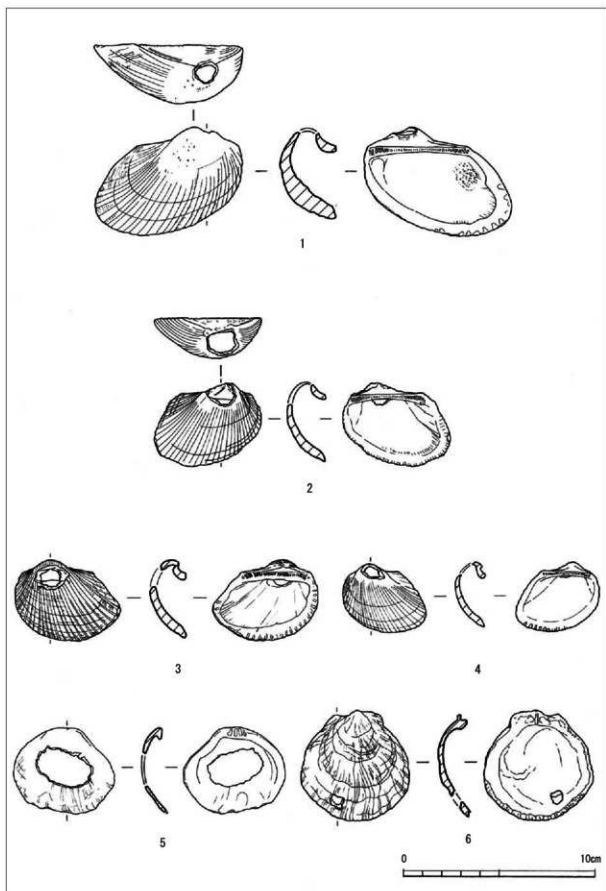




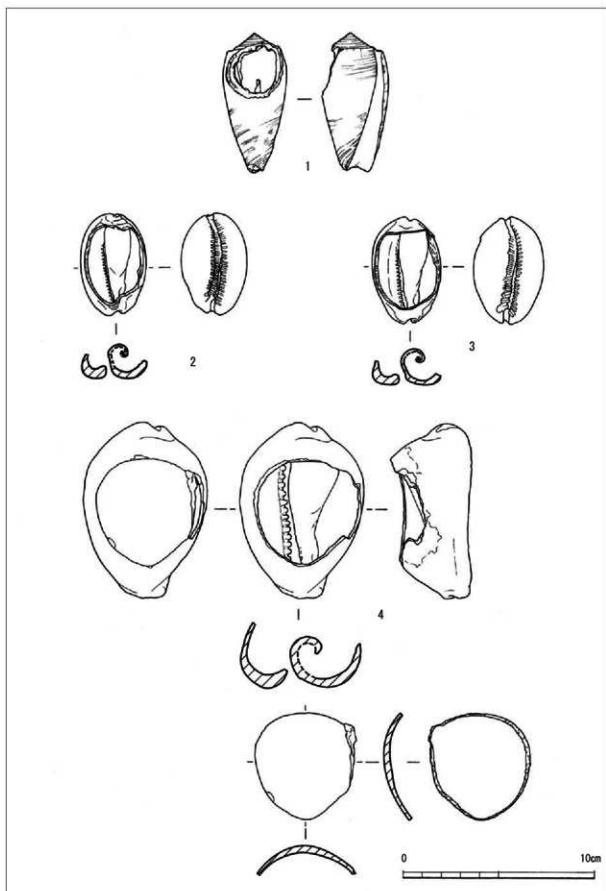
第10圖 (圖版7) 貝 鍾



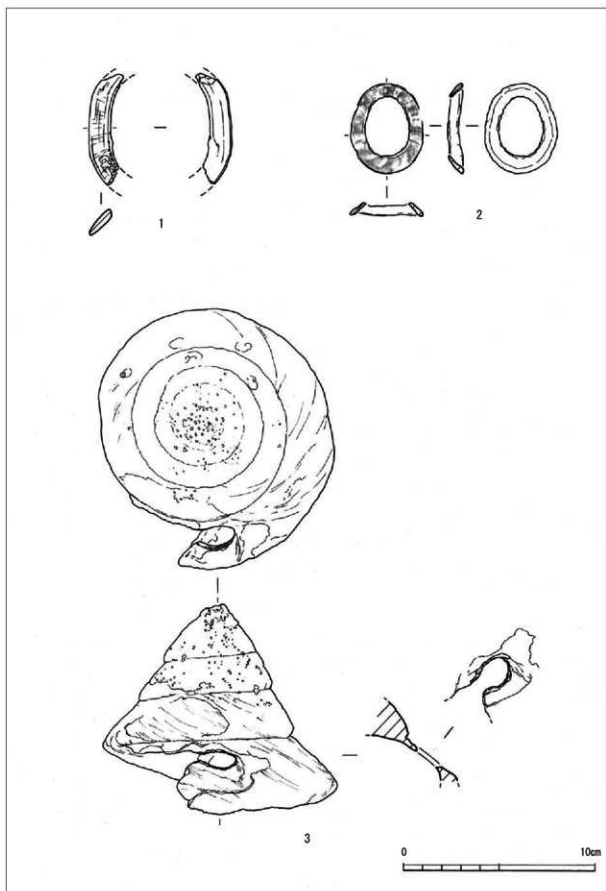
第11圖 (圖版8) 貝 錘



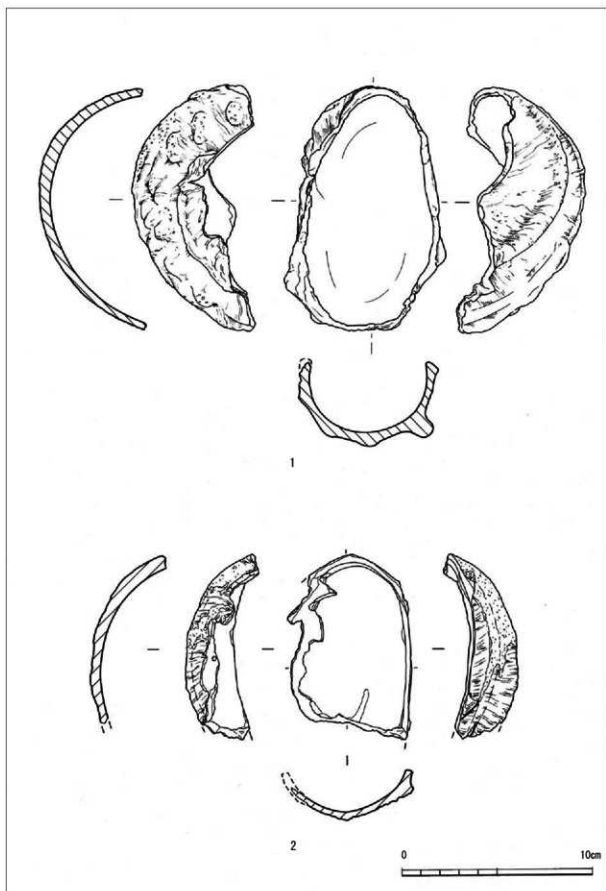
第12圖 (圖版9) 貝 錘



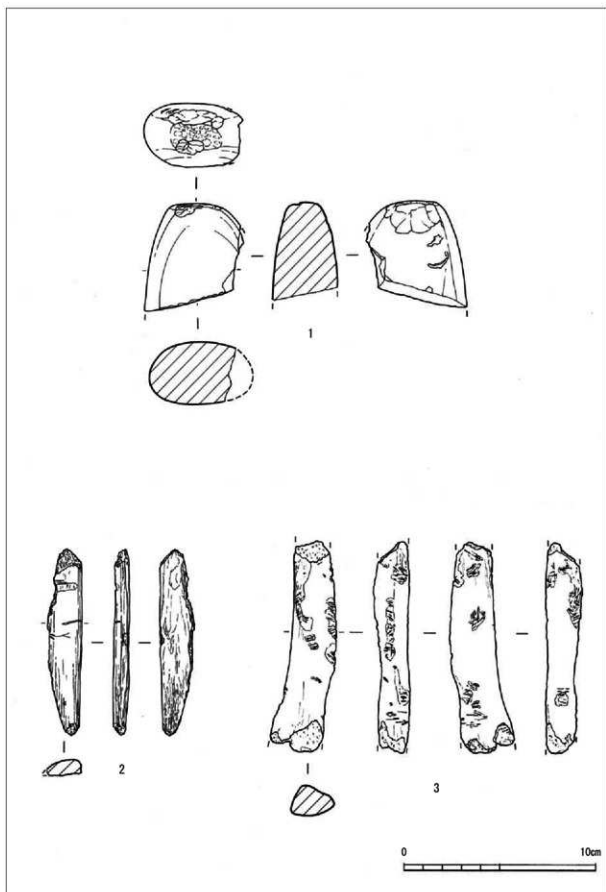
第13圖 (圖版10) 貝 錘



第14圖 (圖版11) 貝 輪、有孔製品



第15圖 (圖版12) 貝匙



第16圖 (圖版13) 石斧、骨製加工品

第4表 石器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	残存状況	計測値 ( mm ・ g )				特 徴	出土地点
				残存長	残存幅	最大厚	現存重量		
第16図1 図版13 の1	石斧	緑色片岩	部分残存	41	52	34	147.9	基部のみを残す。全面に研磨を施すが基部の際に僅かに剥離がみられる。	せ-96 暗褐色砂層 60/80



第5表 骨製加工品観察一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	残存状況	計測値 ( mm ・ g )				特 徴	出土地点
				残存長	残存幅	最大厚	現存重量		
第16図2 図版13 の2	不明	不明	半欠	97	18	7	8.5	筧状。横位の線状の刻みが数本確認できる。解体の際の傷か。	せー97 暗褐色砂層 0/20
第16図3 図版13 の3	ジュゴン?	不明	半欠	111	23	16	22.2	長軸に対して横位の刻みが多数残る。解体の際の傷か。	せー96 暗褐色砂層 60/80

石斧（第16図1、図版13の1）

石斧の半欠品である。基部を残す。

#### 第4節 骨製加工品

骨に残る人為的な痕跡と認められるものをここに示した。2点を掲げた（第16図2・3、図版13の2・3）。現在他に1点の同様の資料が確認されている。いずれも食用として解体の際の切痕の可能性はある。

#### 第5節 貝類遺存体

量・種類ともに最も出土量の多かったものである。31科85種が出土している。第6表にまとめた。

#### 第6節 魚類遺存体

9科11種が確認されている。第7表に示した。

#### 第7節 棘皮動物・甲殻類・軟体動物・フジツボ類・ウミガメ類・ イノシシ・鳥類遺存体・その他獣骨

それぞれを第8～17表に示した。

#### 第7節 石材

出土量は非常に少なく、石器の素材として用いられるものも殆ど見当たらなかった。第18表にまとめた。



第6表 貝類遺存体出土一覽(2)

巻貝	リュウテン科			ニシキウズ科			オニツノガイ科			イモガイ科										ソデガイ科				アツキガイ科																		
	ナリウガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ	カニガイ										
さ-99	割	1										1																														
	破	1																																								
し-99	割		2																																							
	破	1																																								
せ-96	割	1	1	10			2	14				1	3																													
	破	1	1	1			7	6				5	35																													
せ-97	割	1	1	4									1																													
	破	1	1	1																																						
せ-99	割	1	1	5									2																													
	破	2	1																																							
せ-100	割			10																																						
	破	1																																								
そ-96	割	2	5	7	12	1																																				
	破	2	1																																							
そ-97	割	1	2	4	2	9																																				
	破	2	1	1																																						
た-96	割	1	2	1	1	1																																				
	破	1	2	1																																						
3区 周辺	割																																									
	破																																									
表紙	割																																									
	破																																									
合計		9	14	21	9	52	4	1	262	26	1	1	33	82	1	1	33	5	1	3	13	1	1	2	4	2	214	3	45	5	3	42	1	4	1	94	31	19	4	8	2	7



第7表 魚類遺存体出土一覧(1)

目 目 類	ヌキ目																				合計						
	ハタ科		フエダイ科		タイ科		フエフキエフキ科				ペラ科		フダイ科				イロフダイ科										
	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明							
部位	主上顎骨	前上顎骨	不明	舌顎骨	フエダイ	クロダイ	歯・顎骨	前上顎骨	前上顎骨	歯骨	主鰓蓋骨	口蓋骨	前上顎骨	不明	前上顎骨	前上顎骨	上顎頭骨	歯骨	前上顎骨	上顎頭骨	上顎頭骨	上顎頭骨	上顎頭骨	下顎頭骨			
番号	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明
シ-89	40/90																										
セ-96	0/20																										
	20/40							1																			
	40/60							1																			
	60/80																										
	80/100																										
セ-97	0/20							1																			
	40/60																										
	60/80																										
セ-89	40/60								1																		
セ-100	20/40																										
セ-96	0/20																										
	20/40																										
	40/60																										
	60/80																										
	80/100																										
セ-97	0/20																										
	40/60																										
	60/80																										
	80/100																										
セ-97	0/20																										
	40/60																										
	60/80																										
	80/100																										
セ-96	20/40																										
	40/60																										
	60/80																										
	80/100																										
セ-97	0/20																										
	40/60																										
	60/80																										
	80/100																										
セ-96	20/40																										
	40/60																										
	60/80																										
	80/100																										
三区周辺																											
合計	1	1						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2

第7表 魚類遺存体出土一覧(2)

種別	スズキ目																		合計				
	ナンヨウアブダイ						ナガアブダイ			コブダイ			ハサブダイ			不明							
	前上顎骨	歯骨	上顎頭骨	上顎頭骨	下顎頭骨	歯骨	上顎頭骨	上顎頭骨	前上顎骨	歯骨	上顎頭骨	上顎頭骨	前上顎骨	歯骨	上顎頭骨	下顎頭骨	方骨						
左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明						
シ-89	40/60																		2				
セ-96	0/20												1	1									
	20/40												1										
	40/60	1																	5				
	60/80													1					1				
	80/100																						
セ-97	0/20																						
	40/60																						
	60/80																						
セ-89	40/60												1						4				
セ-100	20/40	1											1						1				
セ-96	0/20																						
	20/40																						
	40/60												1						4				
	60/80												1						5				
	80/100													1					1				
セ-97	0/20																						
	40/60																						
	60/80																						
セ-96	20/40																						
	40/60																						
	60/80																						
	80/100																						
セ-97	0/20																						
	40/60																						
	60/80																						
セ-96	20/40																						
	40/60																						
	60/80																						
	80/100																						
タ-96	20/40																						
	40/60																						
	60/80																						
	80/100																						
三区周辺																							
合計		1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	3	5	1	3	1	1	2	1	1	1	29

第7表 魚類遺存体出土一覧(3)

種別	目	フダ目												合計		
		モンガカワハギ						ハリセンボン								
		不明						不明								
		上	下	背	歯・	主	前	歯・	角	方	舌	主	尾		背	不明
頭	頭	鰭	顎	鱗	上	顎	骨	骨	骨	鱗	骨	骨	骨	骨		
部位	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	
し-96	40/90															1
せ-96	0/20															10
	20/40		1													34
	40/60															8
	60/80															2
	80/100															2
せ-97	0/20															19
	40/60															40
	60/80															10
せ-99	40/60	1														8
せ-100	20/40															2
そ-96	0/20															8
	20/40															10
	40/60															20
	60/80															17
	80/100															2
そ-97	0/20															10
	40/60															9
	60/80															61
	80/100															1
た-96	20/40															2
	40/60															14
	60/80															4
	80/100															2
三区周辺																296
合計		1	1	1	1	2	5									2
																59
																3
																2



第8表 棘皮動物 (ウニ類) 出土一覧

種	部位	層序		せ-96		せ-97		せ-99		そ-96			そ-97			た-96		三 区 辺	周 合計
		0/20	20/40	40/60	40/60	0/20	40/60	60/80	80/100	0/20	40/60	60/80	80/100	0/20	40/60	60/80	20/40		
ハイブウニ	棘		1			2	1	2	2						1			9	
種不明	棘	1	3	31	1									5			1	42	
	甲	2					1	1						1	1		1	7	
合計		1	6	31	1	2	2	3	2	1	6	1	6	1	1		2	58	

第9表 甲殻類 (カニ類) 出土一覧

種	部位	層序		せ-96		せ-97		そ-96		そ-97		合計
		20/40	0/20	40/60	20/40	40/60	60/80	0/20	40/60	60/80		
甲殻類 (カニ)	はなみ(可動・ 不動指不明)	2	3	3	1	2	3	14				14

第10表 軟体動物 (頭足類・イカ) 出土一覧

種	部位	層序		せ-100
		20/40	40/60	
コウイカ	甲編			1

第11表 フジツボ類出土一覧

種	部位	層序		せ-96		そ-97		合計
		20/40	0/20	40/60	40/60			
種不明	破片	1	1	1	3			3

第12表 ウミガメ類出土一覧

部位	層序	せ-96			せ-97			せ-99			そ-96			そ-97			た-96		合計	
		0/20	20/40	40/60	80/100	0/20	40/60	60/80	40/60	0/20	20/40	40/60	80/100	0/20	20/40	40/60	80/100			
頭骨			1																1	
尺骨			2														1		3	
指骨			1	1															3	
不明	2	8	6	1	8	3	6	2	9	2	5	3	1	①	7	5	11	①	4	84
	2	9	10	1	8	3	6	2	9	2	5	3	1	①	7	5	12	①	5	91

○は解体数

第13表 イノシン出土一覧

部位	せ-96		せ-97		せ-99		せ-100		そ-96		そ-97		た-96	三区	合計
	0/20	20/40	40/60	0/20	0/20	40/60	20/40	0/20	20/40	60/80	40/60	60/80			
後頭骨		2													2
上顎骨															1
下顎骨	1			1		1						1			6
肋骨															1
大股骨			(1)												(1)
軸骨(第2項椎)	1								(1)						1
腰椎															(2)
上腕骨		(1)											1		1
尺骨										(1)	1				2 (1)
橈骨	1														(1)
中手骨		(1)													(1)
寛骨		(1)											1		(1)
距骨			1		1		1	1	1	1					5 (1)
指骨															1
合計	3	4 (4)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	(1)	20 (8)

( ) は検骨

第14表 イノシン出土一覧

部位	上顎歯												下顎歯												上下不明		合計														
	左						右						左						右						不明																
	d	m	3	4	P	4	M	1	M	2	M	3	P	2	P	3	P	4	M	1	M	2	M	3	C	P		2	M	2	M	3	C	M	3	C	不明				
せ-96																																									
20/40																																									
せ-97																																									
60/80																																									
そ-99																																									
40/60																																									
そ-96																																									
60/80																																									
0/20																																									
せ-97																																									
60/80																																									
合計	1	1	(1)	1	1	(1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3 (1)	21 (2)	1 (1)	2 (1)	

( ) は未測定、( ) は検骨

第15表 鳥類出土一覧

種	せ-96		そ-97		合計
	40/60	60/80	40/60	60/80	
種不明	1	1	1	1	2

第16表 歌骨（種不明）出土一覽

部位	せ - 96		せ - 97		そ - 96			そ - 97			た - 96		合計
	20/40	40/60	0/20	60/80	0/20	20/40	40/60	60/80	0/20	60/80	80/100	40/60	
下頰骨			1									1	
肋骨	1						1	1			1	6	
不明	1 (4)	1	1	1	(1)	4	(1)	(1)	2	5		15 (6)	
合計	2 (4)	1	3	1	(1)	4	1	1 (1)	2	5	1	22 (6)	

第17表 骨（不明）出土一覽

種	し - 99		せ - 96		せ - 97		せ - 99		せ - 100		そ - 96		そ - 97		た - 96		合計
	60/80	20/40	20/40	40/60	0/20	40/60	40/60	40/60	20/40	20/40	0/20	20/40	40/60	0/20	60/80	40/60	
不明	1	11	1	1	3	2	2	9	3	10	3	6 (1) ①	2	10	1	1	65 (1) ①

( ) は疑骨、○は解体直

第18表 石材出土一覧

出土地	種	石灰岩片・サンゴ礁		千枚岩等		千枚岩等	石材	チャート	軽石	その他	合計
				千枚岩等	石材						
し-99	40/60		3								3
せ-96	20/40		12	1						1	14
せ-96	40/60		5						3		8
せ-96	60/80		1			1					2
せ-96	80/100		1								1
せ-97	0/20		5								5
せ-97	40/60		8						1		9
せ-97	60/80		1						5		6
せ-99	20/40										0
せ-99	40/60		15	3				1	5		24
せ-100	20/40		6	3					2		11
そ-96	0/20		7								7
そ-96	40/60		8	3							11
そ-96	60/80		11	1				1			13
そ-97	0/20		5	1			2				8
そ-97	40/60		2								2
そ-97	60/80		27	1					5		33
そ-97	80/100		1							2	3
た-96	0/20		1						1		2
た-96	20/40		3								3
た-96	40/60		1						1		2
た-96	60/80		2								2
た-96	80/100		1								1
3区周辺			1						1		2
表			7								7
合計			134	13		3		2	24	3	179

## 第Ⅶ章 総括

以上、調査の成果について述べた。ここで今一度、整理してまとめとしたい。

発掘調査の経緯については第Ⅰ章で述べたとおりセレモニーホール建設工事中に発見されたことによる。今後は周知の埋蔵文化財包蔵域の周辺においても注意を喚起する方策が必要となろう。開発調整の事前確認の手續きに課題を残した。

さて、遺跡の立地・範囲について、これまでの調査例から、遺跡は崖中腹から斜面下位、斜部と平地の境辺りまでとみられていたが、今回の発見により西側への広がりが確認された、工事による掘方方法面ではさらに北側の現駐車場側へ延びる様子が窺え、範囲はさらに広がる模様である。

ただし、今回調査した場所は海拔が約3mあって、当時の海岸まで2～30mの距離からすれば思いの外高低差がある。加えて琉球石灰岩の崖側からは今より流水による影響も大きかったであろう。今回の調査で確認された遺物包含層の堆積の在り方は、このような環境にあって砂丘は絶えず動いており、結果遺跡としての痕跡も徐々に広がっていったのではなかろうか。

本稿では、貝類・魚類遺存体などの自然遺物については、十分な集計分類を終えておらず、現段階では十分な考察が果たせないのであるが、現時点において過去の調査との比較した場合、高宮氏による調査で採集された貝の種類とほぼ共通する。詳細については、集計・分析の済んだ段階で稿を改めたい。

土器について、高宮氏による調査では無文のものに混じて口唇部に刻みを持つものが散見されるが今回の調査において口唇部に刻み文様を持つものはなく、より無文化の傾向の強い印象を受ける。前回と同様、粘土紐で突起を附す資料が得られている。破片が小さく全体の構成は不明であるが、他に凸帯資料はなく、おそらく口唇に部分的に附したものであろう。

他方、今回の土器の観察において、特にサブタイプ分類は行わなかったが、大凡の器形器面調整の具合や類推できる器形から次の特徴を有する二種のタイプの存在が注意された。なお、胴部片資料にもいくつかこの二種に類するとみられる資料がある。

- 1：外反器形。入念なナデ調整が施され、器面や口唇部の作りも端正である。焼成は良好で堅緻。第6図1などに代表される。
- 2：器体の上位で内傾となる。器面には指頭などによる凹凸があり、作りは雑な印象がある。粘土の織ぎ目に沿って帯状に盛り上がり強調される。焼成は良いが泥質感がやや強い。ここには第7図9が代表される。いわゆる大当原タイプと呼ばれる土器を想起させる。

資料の限られる現時点において言及は出来ないものであるが、本遺跡のより具体的な所属時期を判断する手がかりになるのではないだろうか。

### 註

註1 高宮廣衛・知念勇・岸本義彦・中村健「談谷村大当原貝塚発掘調査概報」『談谷村立歴史民俗資料館紀要』第17号 1993

## 图 版



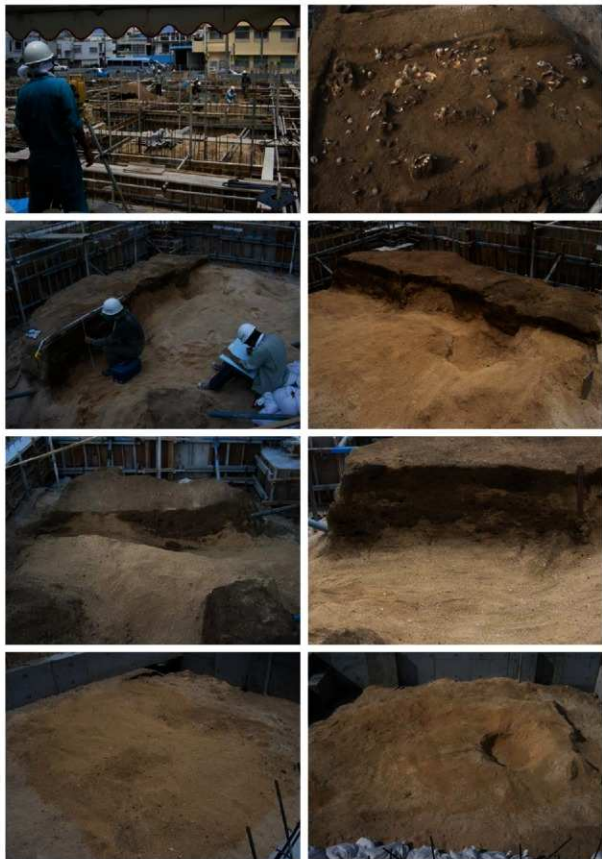


図版 1 調査地区の状況

一段目左：調査地区全景（東から）  
 二段目左：調査地区全景（北西から）  
 三段目左：調査区（1区）  
 四段目左：発掘調査前（3区）

一段目右：後方は崎樋川貝塚 A  
 二段目右：調査前（3区）  
 三段目右：発掘作業（3区）  
 四段目右：発掘作業（3区）





図版 2 調査地区の状況

一段目左：作業風景

二段目左：作業風景

三段目左：せ・そ-100完掘（2区）

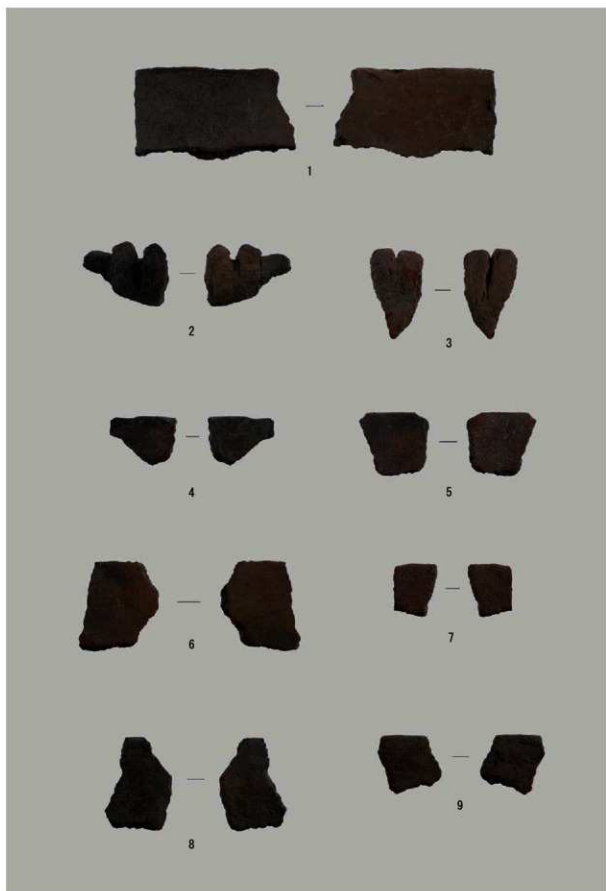
四段目左：完掘（3区）

一段目右：遺物の出土状況

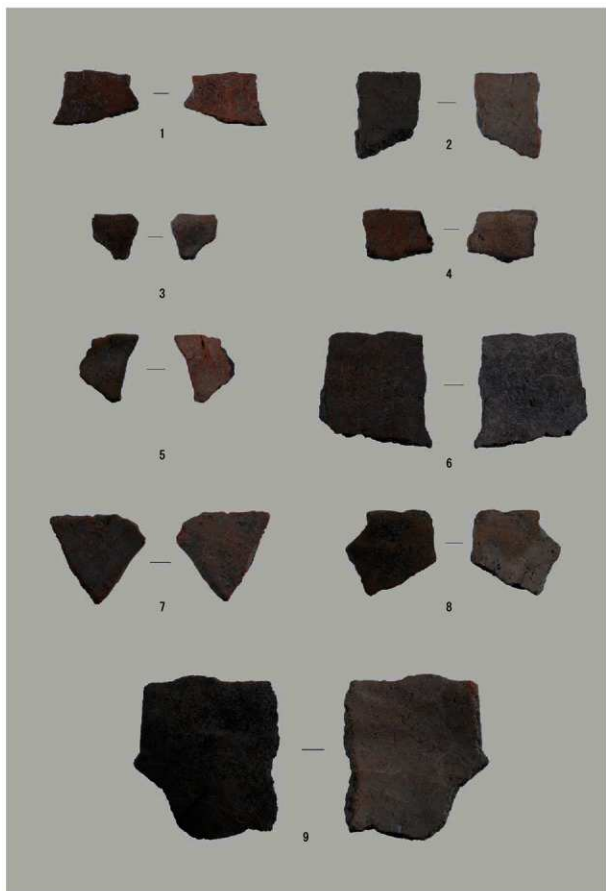
二段目右：こ・さ・し-100完掘（1区）

三段目右：こ・さ・し-100完掘

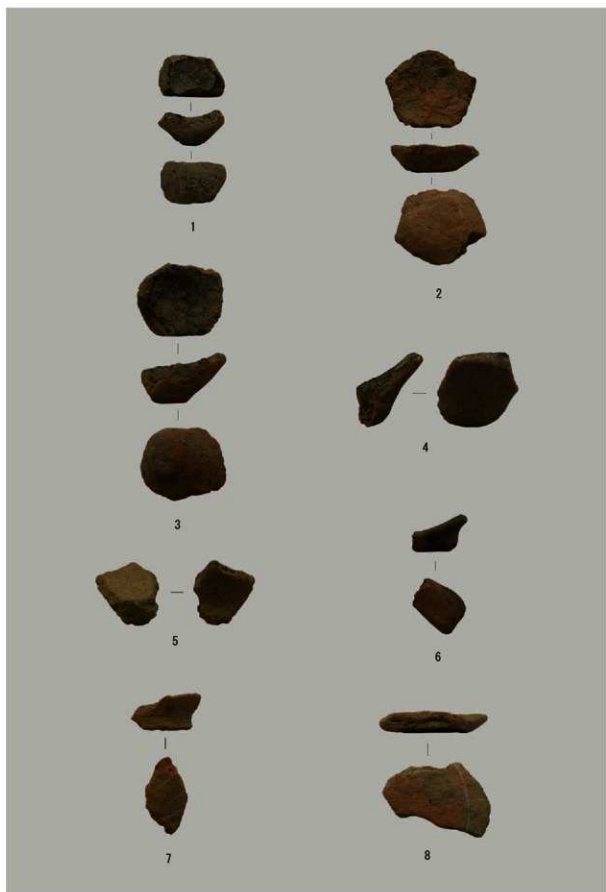
四段目右：完掘（1区）



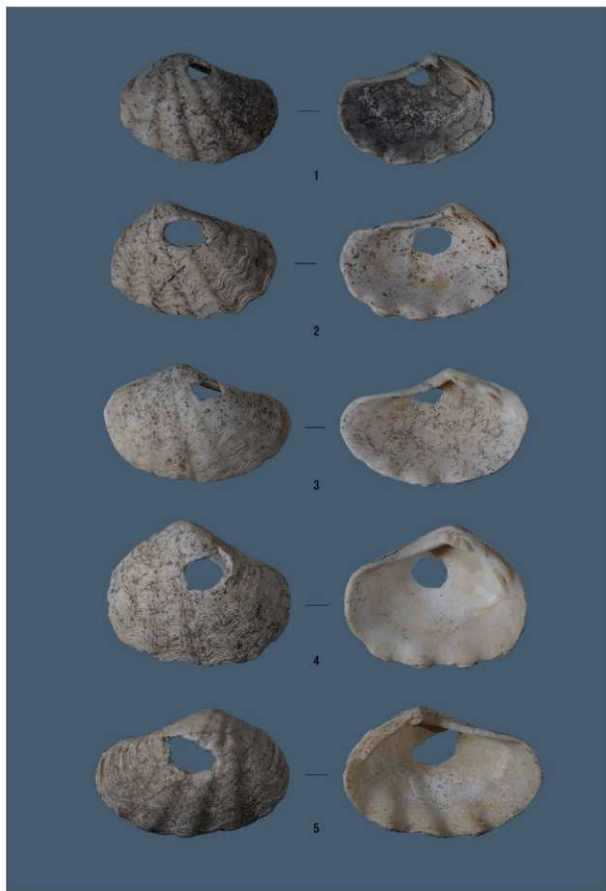
図版3 (第6図) 土器 口縁部



図版4 (第7図) 土器 口縁部



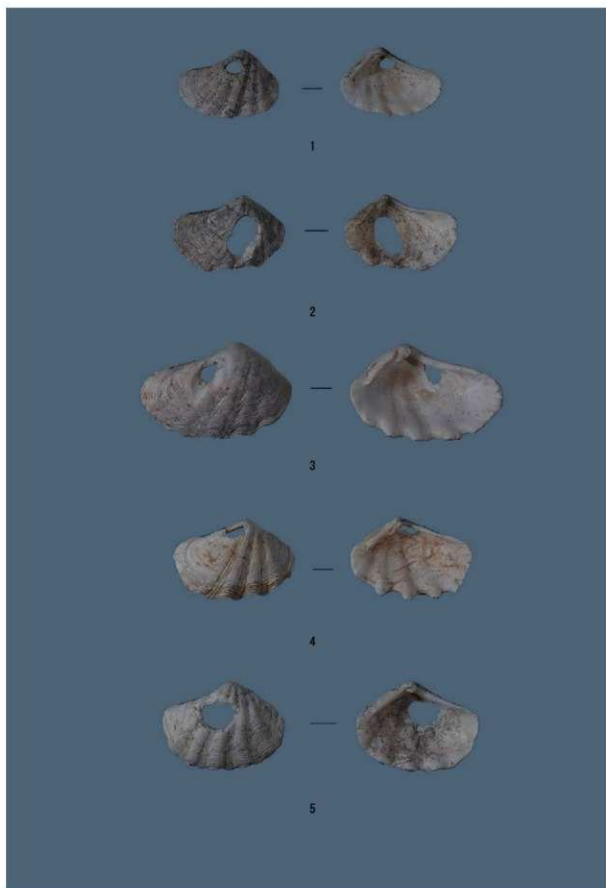
图版 5 (第 8 图) 土器 底部



図版 6 (第9図) 貝 錘



圖版7 (第10圖) 貝 錘



圖版 8 (第11圖) 貝錘



圖版 9 (第12圖) 貝 鍾





圖版10 (第13圖) 貝 錘



图版11 (第14图) 貝輪 (1・2)、有孔製品 (3)



图版12 (第15图) 貝匙



图版13 (第16图) 石斧 (1)、骨製加工品 (2・3)

報告書抄録

ふりがな 書名	な は し ない い せき 那 覇 市 内 遺 跡							
副書名	崎橋川貝塚 B							
巻次	那覇市文化財調査報告書							
シリーズ名	那覇市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 9 4 集							
編著者名	玉城安明							
編集機関	那覇市教育委員会 文化財課							
所在地	〒900-8553 沖縄県那覇市前島3-25-1 098-891-3501							
発行年月日	西暦 20012年 3月 30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	"	"			
崎橋川貝塚 B	那覇市大 字天久 小字崎橋川 原	47201		26度 14分 01秒 ～ 26度 14分 15秒 世界測地 系)	127度 41分 06秒 ～ 127度 41分 00秒 世界測地 系)	20070723 ～ 20070803	9 0 m <sup>2</sup>	セレモニーホール建設に係る緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主要な時代		主要な遺構	主要な遺物	備考		
崎橋川貝塚 B	貝塚	沖縄貝塚時代 後期			土器 貝鏃 有孔貝製品 貝輪 貝匙 石斧			

---

那覇市文化財調査報告書第94集

## 那覇市内遺跡Ⅴ

崎樋川貝塚 B

- 発行** 2012(平成24)年3月30日  
那覇市教育委員会  
〒900-8553 沖縄県那覇市前島3-25-1
- 編集** 那覇市教育委員会 文化財課  
TEL 098-891-3501  
FAX 098-891-3523
- 印刷** 株式会社 東洋企画印刷 那覇営業所  
〒901-0152 沖縄県那覇市小録3-12-1  
TEL 098-857-2657
-